

# 会員便り

## ANAグループ(ANA Cargo、NCA)

### 1. はじめに

2024年2月のSEAJ(日本半導体製造装置協会)加入以来、会員の皆様には航空貨物輸送に関する勉強会や成田空港上屋見学へご参加いただくなど、多大なるご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。このたび、本誌面をお借りして、改めてANAグループの貨物事業概要や最新の取り組みについてご紹介させていただきます。

### 2. 日本貨物航空とのグループ化による体制強化

ANAホールディングス株式会社は、2025年8月1日付で日本貨物航空株式会社(以下、NCA)の全株式を取得いたしました。

これにより、ANAグループが有する旅客便・貨物便の広範な国際線ネットワークに、NCAの強みである日本と欧米を結ぶ大型貨物便ネットワークが統合されました。このグループ化により、日本・アジア・欧米間をつなぐ輸送力が飛躍的に強化され、本邦最大のコンビネーションキャリアへと進化を遂げていきます。

### 3. 保有機材

ANAグループのネットワークにNCAの大型機材が加わることで、成長が見込まれる地域間の貨物需要へ柔軟に対応し、あらゆる商材に適した便利なサービスをご提供できる体制が整いました。

#### 【統合後の保有機材数】

- ANA 運航貨物機: ボーイング767F 型機 6機、ボーイング777F 型機 2機
- NCA 運航貨物機: ボーイング747-8F 型機 8機\*

合計: 16機体制

\*NCAは、この他にボーイング747-400F型機を7機保有しており、他社へリース中

さらに、次世代の大型貨物専用機「ボーイング777-8F型機」の導入を決定し、引き渡しは2028年を予定しております。同機は120トンの搭載重量を誇りながら、燃費効率が格段に改善されており、環境対策の切り札としても期待されています。



2025年8月1日にNCAとグループ化

#### 4. 国内外の拠点

ANA グループでは、首都圏の成田・羽田両空港を活用する「デュアル・ハブ戦略」を推進しています。

- 貨物専用機：成田空港を拠点として展開
- 旅客機貨物：羽田・成田の両空港を活用

##### 【国際線貨物専用機の主なネットワーク】

- 北米：ロサンゼルス、シカゴ、ダラス、ニューヨーク等
- 欧州：アムステルダム、フランクフルト、ミラノ
- アジア：仁川、シンガポール、台湾等
- 中国：上海、北京、香港等

日本発着貨物に加え、ASEAN・中国と欧米を結ぶ三国間輸送の需要にも幅広く対応しております。

国内・海外の販売拠点は Web サイトをご参照ください。  
<https://www.anacargo.jp/ja/int/location/>

さらに、成田国際空港株式会社（NAA）による「第8貨物ビル」の新設計画を受け、ANA は同ビルを借用し、2024年10月より新たなオペレーションを開始しました。これまで6カ所に分散していた貨物上屋を、グループ最大規模となるこの新上屋へ集約いたしました。約60台の自動搬送車（AGV）を導入し、入出庫や蔵置工程の無人化、ULD（航空機搭載用コンテナ）搬送・管理の自動化を実現しました。



自動搬送機を活用した新しい貨物上屋

これにより、作業品質の平準化や将来的な人手不足への対応を図るとともに、保管スペースの拡充とオペレーション品質の向上を実現しています。

#### 5. 半導体関連での取組

ANA と NCA は、半導体製造装置の輸送において、日本発着の貨物を中心に多くのお客様にご利用いただいております。輸出で約5割、輸入で約3割のシェアを占めています。

さらに、ANA グループ（NCA 含む）は、お客様のご要望に応じ、定期便が就航していないオフライン空港への貨物便チャーター輸送にも注力しており、2025年には半導体製造装置のチャーター輸送で12回の実績を重ねました。

両社は、半導体製造装置や医療機器をはじめとする精密機械に対応した、高品質な輸送サービスを提供しております。

##### 【輸送サービスの概要】

- 対象：ショックウォッチかテイルトウォッチのいずれか、あるいは両方を貼付した貨物
- 特徴：①チェックシートを活用したウォッチの状態確認  
②衝撃や傾き / 温度管理などに配慮した作業
- 成田空港では段差がある場所を記した地図を作成し、貨物搬送時は低速走行だけでなく、段差のない道を選んで振動を抑えるなど、貨物取り扱いの品質管理を徹底しております。

また、ANAグループには特殊貨物の取り扱いに精通した16人で構成される「プロフェッショナルユニット」があり、案件の検討から輸送完了まで一貫してハンドリングを担当いたします。直近ではオフライン空港への輸送要望をいただくことが増え、国内外問わず、半導体関連・製造装置の輸送を多く行っております。このようなオフライン空港に貨物機を運航する際には、プロフェッショナルユニットを現地に派遣し、高品質な輸送体制を整えます。社内には半導体輸送に特化したプロジェクトも設置しており、関係各部より固定のメンバーをアサインして社内横断的に活動しております。

この専任チーム体制により、半導体関連特有の突発的な輸送需要へも迅速に対応することが可能です。また、案件によっては輸送当日の現場立ち会いまで行うなど、お客様に寄り添ったきめ細やかなサポートを実施しております。



プロフェッショナルユニットのメンバー

## 6. カーボンニュートラルに関する取り組み

ANAグループは、2050年までに航空機運航によるCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにするという環境目標を掲げています。

その一環として、2021年よりCO<sub>2</sub>排出量削減に向けた顧客参加型プログラム「SAF Flight Initiative : For the Next Generation」を開始しました。SAF（持続可能な航空燃料）は、バイオマスや廃食油などを原料とし、ライフサイクル全体でCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減できる燃料です。

## 【SAF Flight Initiative の2つのプログラム】

1. コーポレート・プログラム (For Business Travel) : 従業員の出張に伴うCO<sub>2</sub>排出を削減
2. カーゴ・プログラム (For Transportation & Distribution) : 物流（輸送・配送）に伴うCO<sub>2</sub>排出を削減

2023年9月からは、カーゴ・プログラムを荷主企業様向けに拡大し、貨物代理店経由の輸送実績（重量・距離等）に基づいて、荷主企業様へScope3削減量を割り当てる新サービスを開始しました。高まるカーボンオフセット需要に応え、荷主様、フォワーダー様、そしてキャリアが協力し、サプライチェーン全体での脱炭素化を推進してまいります。

## 7. 最後に

ANAは、高頻度・定時性に優れた旅客便ネットワークに加え、中国・アジアへの強固なネットワークを有しております。一方、NCAは北米・欧州路線において豊富な大型貨物機ネットワークを展開しています。これら両社の強みが融合することで新たなネットワークが構築され、また、それぞれが培ってきた多様な商材に関する知見やノウハウが相互に補完し合います。この相乗効果により、お客様の利便性を一層向上させ、ビジネスのさらなる発展に貢献できるものと確信しております。半導体製造装置の輸送や、特定のオフライン空港への運航検討など、お困りごとがございましたら、ぜひお気軽にANA Cargo Websiteからご相談ください。<https://anacargoHELP.zendesk.com/hc/ja>



グループ化で新たなソリューションを提供